ビニペットの
東都興業㈱
ヒロ
ビニペットEX

平成31年
1月27日
(日曜日)
第1328号

園芸新聞®

発行所
株式会社園芸新聞社
〒180－0001 武蔵野市
吉祥寺北町4－7－13
電話 0422(51)8953
FAX 0422(55)7187
発行人 前田 彰宏
購読料 1ヵ年5,400円
振替 00130－2－85300

日本施設園芸協会主催

施設園芸総合セミナー

次世代に向けた戦略技術

2月14・15日 タワーホール船堀

日本施設園芸協会が主催する施設園芸総合セミナー・機器資材展が2月14日と15日にタワーホール船堀（東京都江戸川区）において開催する。「施設園芸の高収益化と次世代に向けた戦略・新技術」のテーマで講演と事例発表のほかパネルディスカッションを行うが、1日目は環境制御など次世代の生産システムに関した講演を行い、2日目は終日キュウリの多収生産技術や流通に関した内容のため、キュウリ生産者必聴のセミナーとなっている。

○参加費・参加方法 日本施設園芸協会会員と農業生産者3千円、一般6千円（当日現金で支払い）。参加申込みは日本施設園芸協会のホームページ（イベント・展示会案内）より申込書をダウンロードしてメール、FAX、郵送する。

○締切 1月31日（木）まで。なお、締切日以降は日本施設園芸協会に問い合わせを。セミナーに関する問い合わせ先は電話03－3667－1631。FAX03－3667－1632。

農水省施設園芸関係担当官。

○会場 タワーホール船堀5階大ホール（東京都江戸川区船堀4－1－1）・都営地下鉄新宿線船堀駅下車徒歩約1分。

14日 生産システムの講演

○2月14日（木）第1部 「施設園芸の次世代に向けた生産システムの方向性」

13時～開会（主催者挨拶・来賓祝辞）。13時20分～「施設園芸の高収益化と環境への配慮」大阪府立大学名誉教授・池田英男氏。14時10分～「スマート施設園芸とユビキタス環境制御システムプラットフォーム」農研機構西日本農業研究センター・黒崎秀仁氏。15時～出展者プレゼンテーション。15時30分「エネルギー設備の効率的利用によるトマトおよびベビーリーフの大規模生産」㈱Jファーム苫小牧苫小牧事業所所長・伊藤春男氏。16時20分～「今後の施設園芸に係わる国の施策について」農水省次世代施設園芸グループリーダー・川本憲一氏。

○2月15日（金）第2部 「次世代に向けたキュウリの多収性技術と流通の発展方向」

10時～「わが国のキュウリ生産の動向と多収生産技術」農研機構野菜花き研究部門施設生産ユニット長・東出忠桐氏。10時40分～「キュウリの養液栽培による新しい産地形成の取り組み～きゅうりタウン構想～」徳島県南部総合県民局プロジェクト担当・原田正剛氏。11時10分～愛知県三河地域におけるきゅうり産地の生産性向上の取り組み」JA西三河キュウリ部会・下村堅二氏。11時40分～出展者プレゼンテーション。12時～昼食休憩。13時～施設園芸技術指導士資格取得者紹介。13時20分～「キュウリで高収量（30～40㌧／10㌃）を実現するための生産技術」北部九州胡瓜研究会会長・山口仁司氏。13時50分～高収益化が期待できるキュウリ品種の仕立て法の動向」㈱埼玉原種育成会取締役研究部部長・清野克彦氏。14時20分～「キュウリの加工・業務用向け規格と流通の動き」野菜流通カット協議会会長・木村幸雄氏。15時～パネルディスカッション「次世代に向けたキュウリ生産・流通の発展方向」コーディネーター：日本施設園芸協会参事・高市益行氏。パネラー：講演・発表者と

15日 多収技術と流通発表

とめも終わり、その発表も期待される。日程は次のとおり。

▽1日目 13時半に集合、14時開会。この日は座学が中心で、斎藤理論の基礎、自然の摂理、各作物栽培についての説明があり、6時から新年会を催す。

▽2日目 午前9時から平成30年農事気象予報と作物生育予測の総括点検と平成31年の作成経緯について、午後1時から全体討議（活用方法について）、4時から総会等。6時から故齋藤善三郎先生・故白鳥前会長を偲ぶ会を催す。

▽3日目 朝食後解散だが、自由参加で9時から12時まで疑問点の解消と予測の活用方法の座学を行う。

なお、今年度の新年研修会申込みはすでに締め切っている。

2月13日から熱海市で

農事気象学会新年研修会

農事気象学会（会長・岩崎勤氏、事務局長・片山悦郎氏）の平成31年度新年研修会（第19回）は2月13日（水）から15日（金）にかけて2泊3日にわたり、静岡県熱海市の「ホテル寛一」において開催される。

昨年はまれにみる気象災害の多い年だったせいか天気に関する関心が高かったようで、気象学会のメンバーが増えたようだ。「学会に参加するには時間も経費もかかるけど、実務上はプラスになる」と会員は口を揃えていっており、昨年を上回る盛会になると思われる。

学会の特徴でもある会員の「寒試し」の取りま

野菜のおいしさ研究会

野菜と文化のフォーラムが開く

野菜と文化のフォーラムは1月15日に野菜のおいしさ研究会を東京都品川区西五反田のテスコム電気本社にて開催した。今回はこれから主役になりうる野菜として期待されているケールを取り上げ、理解を深めるための講演や試食が行われた。

ケールはアブラナ科で結球しないキャベツの一種。歴史は古くギリシャ時代に薬草として利用され、栽培がしやすくて多収になることからヨーロッパの食糧難時代を救った野菜として世界各地に拡がっていった。日本では明治の頃に再導入されて食されている。

生食用というより青汁などに利用され、体に良いけれども苦みがあるというイメージをもつ人も多い。しかし、最近は種苗メーカーが生食用として葉が柔らかくて美味しいケールを発売して徐々に消費が伸びている。研究会では抗酸化力が強く栄養価がトップクラスであるケールの魅力を引き出して消費を呼び起こすことを目的に開催された。

はじめにトキタ種苗㈱取締役開発部長の吉田昌美氏がケールの基礎知識と国内の現状について、続いて㈲コートヤード代表取締役の新田美砂子氏がケールの調理特性とおいしさを引き出すメニュー化のポイントについてそれぞれ講演した。

このあと試食会が行われた。協賛のトキタ種苗㈱、㈲石井育種場、増田採種場㈱3社のケールが提供され、講演を行った新田氏監修のサラダ、白和え、ピザ、餃子など8品の料理が提供された。生でも美味しいし、加熱調理にも向いておりキャベツやレタスと何ら変わらず食べることが出来る。しかもヘルシーで栄養価が高いから体にいいものを食べているという満足感を得ることが出来るケールはこれからの野菜としてひじょうに期待できるが、そのためには生産者や流通業者が一体となって、消費者に訴求することが大切であると研究会はまとめた。

15日に開催の野菜のおいしさ研究会

安心・安全・満足度120%

いずれも褐斑病に強い品種

席巻 普及実力品種

OS交配 グリーンラックス・2
8月下旬～3月まき用
小葉で徒長しにくく
収穫即箱詰めOK!

OS交配 ハイグリーン21・22
9月～3月まき用
冬春キュウリの概念を一新
果実の良さで選択

OS交配 トップラン
9月～3月まき用
つる下ろし栽培にも最適!
省エネ・省力化で安定収穫

OS交配 光神1号・2号
1号：9月～12月まき用
2号：8月～3月まき用
更新型つる下ろしに適す

耐病性 多収 食味良好

㈱埼玉原種の越冬用常翔661

圧倒的強さの褐斑病耐病性品種

OS交配 兼備（カネソナエ）1号・2号
褐斑病にはマジカル2号・ちなつ・ゆうみ・極光と同等に強く、ウドンコ病は低温時には発生することもあるが高温期には殆んど出ない

OS交配 極光607
ツヤ系秀品多収
ハウス：9月～3月播き
越冬・促成・半促成・無加温

OS交配 マジカル1号・2号
ハウス：8月～3月播き・越冬・促成・半促成・無加温
（摘芯栽培にも適す）

OS交配 千秀1号・2号
宮崎・高知のつる下ろし栽培用に千秀2号は最適
褐斑病に強い

OS交配 常翔661
節成性100% 1～2本成り
ハウス：8月～5月播き 11月播きは関東以西

OS交配 ゆうみ
単為結果性に極めて強い
ハウス：1月～8月播き
半促成 雨よけ 抑制

相性ピッタリ、バランスOK、OS交配 最適台木

ブルームレス台木 ハウス 露地 全作型
OS交配 F G Y 早生でスタミナ抜群 強力サポート台木
OS交配 ゆうゆう一輝 悪条件で差がつく（黒タイプ・白タイプ）
OS交配 オールスター一輝 草勢コントロール抜群 耐病性向上
OS交配 エキサイト一輝 頑強な根群でスタミナ抜群

ブルーム台木 ハウス 露地 全作型
OS交配 ウルトラG 肥大良く、草勢の回復にも優れる。貝割れ葉小さい
BLACK21（黒ダネ） 低温期に向かう冬春キュウリや露地の早まきに最適

きゅうり・かぼちゃ・メロン育成元
株式会社 埼玉原種育成会
〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀2,616番地
TEL:0480-85-0854(代) FAX:0480-85-0407

OS交配種子 発売元
株式会社シード
〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀2,616番地
TEL:0480-85-7211(代) FAX:0480-85-0407